

<<地震の年表(日本)>>

記載の基準

- 1 日本(排他的経済水域を含む)を震源とする地震で、マグニチュード 7.0 以上、またはマグニチュード 6.0 以上で日本国内で最大震度 6 弱以上、または死者・行方不明者 1 人以上のいずれか 1 つ以上に該当する場合。
- 2 特にマグニチュード 8.0 以上、または最大震度 7、または死者・行方不明者 1,000 人以上(明治以降は 100 人以上)の場合は太字で表記する。
- 3 地震と火山の関連も多く、日本及び津波等で関連の可能性のある火山の情報を挿入しました。

416年前

約 6500 年から 2 千数百年前この間に 1707 年の宝永地震のように津波堆積物を形成する巨大地震が少なくとも 11 回発生したと見られる。

※高知大学による蟹ヶ池(高知県土佐市宇佐町竜)の地層の津波堆積物の調査。

- ・約 3400 年-3300 年前、六間川 - 大谷津波(静岡県)
- ・約 4000 年-2000 年前、関東南部周辺、相模トラフの巨大地震と思われる痕跡が少なくとも 5 回(北日本の沖合で地震の可能性)
- ・紀元前 1000 年頃 南海トラフ巨大地震の発生の可能性、九州の龍神池から津波堆積物が発見
- ・紀元前 800 年ごろ(BP2860 - 2620) 仙台付近で巨大津波の被害。
- ・紀元前 100 年ごろ(BP2030 - 2190) 仙台付近で巨大津波の被害。
- ・紀元前 600 年頃 南海トラフ巨大地震の発生の可能性。大津波が発生した痕跡がある。
- ・紀元前 4 世紀から紀元前 3 世紀ごろ - 宮城県気仙沼市大谷海岸で、津波堆積物を発見。
- ・紀元前 200- 300 年頃 東北地方太平洋沖地震、享徳地震、貞観地震と共に、巨大地震の痕跡を確認
- ・弥生時代の不明時期、琵琶湖西岸で M7.5 の地震、琵琶湖沿岸の 3 遺跡液状化の発生と確認
- ・三重県大紀町 20cm、南伊勢町 60cm、約 2,000-2,300yBP の南海トラフ地震の津波堆積物を発見
- ・紀元前後 南海トラフ巨大地震発生の可能性、高知県土佐市蟹ヶ池、1,900yBP 地層から津波堆積物、(巨大津波で千年分の記録が消され 16 回よりも多かった可能性もある)
- ・95 年 福島・岩沼沖、貞観地震や東北地方太平洋沖地震時を超える規模の「沿岸津波」が発生と推定
- ・ほぼ 210 年前後、石川県白山市部入道遺跡の液状化痕跡から震度 6 強級の地震と推定
- ・350 年頃 南海トラフ巨大地震の発生の可能性、蟹ヶ池でこのころの津波堆積物を発見

5 世紀

- ・416 年 8 月 22 日(8 月 23 日)(允恭 5 年 7 月 14 日) 允恭地震 - 遠飛鳥宮(大和国/現・奈良県明日香村)付近で地震、『日本書紀』に「地震」の記述、**記録に残る日本史上最初の地震 1608年前**
- ・4 世紀- 5 世紀ごろ-430 年ごろ、三陸から房総に M9 級の超巨大海溝型地震と津波発生の可能性(869 年の貞観地震と 2011 年の東北地方太平洋沖地震と同程度の規模の津波と予測) 堆積物発見

6 世紀

- ・599 年 5 月 26 日(5 月 28 日)(推古 7 年 4 月 27 日) 推古地震 - M7、大和国(奈良県)で地震(家屋倒壊、『日本書紀』に記述、**記録に残る日本初の震災記録**) **1425年前**

7 世紀

- ・679 年初頭(天武 7 年 12 月) 筑紫地震 - M6.5 - 7.5、幅二丈、筑紫国(福岡県)で長さ三千余丈の地割れ(『日本書紀』)、(水縄断層の活動による内陸地震との説)(**幅 6m、約 10km長**)
- ・684 年 11 月 26 日(11 月 29 日)(天武 13 年 10 月 14 日) 白鳳地震(天武地震、南海道沖または、南海トラフ全域が震源域の可能性あり) - M8+1/4(Mw8 - 9、死者多数)

土佐で津波により大きな被害、田園(約 12 km²)が海面下へ没す(『日本書紀』)、南海道沖の地震を示唆する記録、地質調査によれば同時期に東海道沖も震源域となった可能性『日本書紀』

(**日本最古の確かな地震津波記録**) 1340年前

8世紀

- 701年5月8日(5月12日)(大宝元年3月26日)大宝地震-丹波(『続日本紀』)、若狭湾の冠島と杵島の一部地域が海没したと伝えられるが疑わしい
- 715年6月30日(7月4日)(和銅8年5月25日)遠江国地震-M6.5-7.5、遠江国(静岡)で地震
天竜川が塞き止め、数十日後に決壊して洪水(『続日本紀』)、埋没樹木では714年発生を支持
- 7月1日(7月5日)(和銅8年5月26日)-M6.5-7.0、三河国地震(愛知)、
正倉47棟が倒壊(『続日本紀』)
- 734年5月14日(5月18日)(天平6年4月7日)畿内七道地震-M7、死者多数(『続日本紀』)、
生駒断層直下型、誉田山古墳が一部崩壊した時期に相当
- 745年6月1日(6月5日)(天平17年4月27日)天平地震-M7.9、岐阜県美濃地方で地震
天皇平城京に復都(『続日本紀』)、愛知県-岐阜県を南北に走る養老断層の1つ前の活動(次が
1586年の天正地震)とする説
- 762年6月5日(6月9日)(天平宝字6年5月9日)美濃・飛騨・信濃(岐阜・長野)で地震(『続日本紀』)-M7以上、糸魚川静岡構造線活断層系で発生したM7+3/4 - 8+1/4と同じ可能性
- 781年7月31日(天応元年7月6日)富士山で最古の噴火記録**
- 797年9月9日(9月13日)(延暦16年8月14日)畿内で地震(『類聚国史』)、南海トラフ地震があった可能性が指摘されている

9世紀

- 800年4月11日(延暦19年3月14日)富士山延暦噴火**
- 818年8月ごろ(弘仁9年7月)弘仁地震-M7.9、上野国、武蔵国の関東内陸で液状化を伴う地震
死者多数(『類聚国史』)山崩れ数里の谷が埋まり、無数の人々が圧死、上野国(こうずけのくに)などの境では地震で潦(にわたずみ)ができた(『類聚(るいじゅう)国史』)

※潦(にわたずみ)地表を流れ、溜った雨水を意味する古語

- 827年8月7日(8月11日)(天長4年7月12日)京都で地震(『類聚国史』)-M6.5-7
- 830年1月30日(2月3日)(天長7年1月3日)天長地震(『類聚国史』)-M7-7.5
- 838年7月29日(承和5年7月5日)伊豆諸島・神津島大噴火**
- 841年前半(承和8年5月3日以前)伊豆国地震-M7、けが人・圧没者あり(『続日本後紀』)
- ※1930年の地震で活動した丹那断層の、一つ前の活動の検討候補
- 850年11月23日(11月27日)(嘉祥3年10月16日)出羽国地震-M7、圧死者多数(『文徳実録』、
『日本三代実録』)
- 863年7月6日(7月10日)(貞観5年6月17日)越中・越後地震-圧死者多数(『日本三代実録』)
(直江津付近の数個の小島が壊滅した、記録は疑わしい見解)
- 864年6月(貞観6年5月) **富士山噴火**(『日本三代実録』)(青木ヶ原樹海を作った貞観大噴火)、
阿蘇山噴火
- 867年11月16日(貞観9年10月13日)陸奥国大地震
- 868年7月30日(8月3日)(貞観10年7月8日)播磨国地震(『日本三代実録』)-M7 台、兵庫県の山崎断層帯の活動によるものと思われる
- 869年7月9日(7月13日)(貞観11年5月26日夜)貞観地震-M8.3-8.6(Mw>8.7)、陸奥国地大震動、地震に伴う津波(貞観津波)の被害が甚大で死者約1,000人(『日本三代実録』)

- 多賀城損壊、津波堆積物調査から震源域が岩手県沖～福島県沖、または茨城県沖の連動型超巨大地震の可能性も指摘、東北地方太平洋側で繰り返し発生と推定される M9 クラスの地震の候補
- 878 年 10 月 28 日(11 月 1 日)(元慶 2 年 9 月 29 日) 相模・武蔵地震-M7.4、圧死者多数、京都でも揺れが感じられる(『日本三代実録』)、伊勢原断層の活動時期に合致するとする説と、館山市の海岸で発見された 900 年ごろとされる津波堆積物から相模トラフのプレート境界地震とする説
 - 880 年 11 月 19 日(11 月 23 日)(元慶 4 年 10 月 14 日) 出雲で地震-M7(『日本三代実録』)
 - 886 年 6 月 29 日(7 月 3 日)(仁和 2 年 5 月 24 日) 伊豆諸島噴火、安房の国で降灰と地震(『日本三代実録』)
 - 887 年 7 月 29 日(8 月 2 日)(仁和 3 年 7 月 6 日) 京都で地震-M6.5(『日本三代実録』。越後西部で津波による溺死者は 1,000 人にのぼった)
 - 887 年 8 月 22 日(8 月 26 日)(仁和 3 年 7 月 30 日)信濃北部地震 - (存在がほぼ否定)
『扶桑略記』の**山崩れ・洪水の記述から日付の誤記があり存在しない地震と指摘**し、その見方が強い仁和地震(南海道沖または、南海トラフ全域が震源域とする説あり-M8-8.5、五畿七道諸国が同日に大震、京都・摂津を中心に死者多数、津波あり(『日本三代実録』)、南海道沖の地震の記録だが地質調査により同時期に東海道沖も震源域となった可能性、この地震によって八ヶ岳が山体崩壊を起こし、形成された堰止湖が 888 年 6 月 20 日(仁和 4 年 5 月 8 日)に決壊したとの仮説を唱えた

10 世紀

- 934 年 7 月 11 日(7 月 16 日)(承平 4 年 5 月 27 日) 京都で地震。午刻に地震 2 回-M6
- 938 年 5 月 17 日(5 月 22 日)(承平 8 年 4 月 15 日) 京都などで地震-M7、死者あり、高野山でも建物損壊、その後も余震が多く、承平 8 年 8 月 6 日に大きな余震
- 976 年 7 月 17 日(7 月 22 日)(天延 4 年 6 月 18 日) 山城・近江地震-M6.7 以上、死者 50 人以上

11 世紀

- 1026 年 6 月 10 日(6 月 16 日)(万寿 3 年 5 月 23 日) 万寿地震-石見国(島根県益田市)の日本海沖で巨大な地震津波が発生、沿岸の各村落に襲来して未曾有の被害をもたらしたとの口碑がある M7.5-7.8、死者 1,000 人以上と推定、益田川沿いにて同時期の津波堆積物と思われる層を確認
- 1088 年 6 月 4 日(6 月 10 日)(寛治 2 年 5 月 13 日) 宮古の辺に 20 時ごろから翌朝まで 9 回地震、大津波が 13 時ごろまでに 3 回来襲(『奥南見聞録』)
- 1096 年 12 月 11 日(12 月 17 日)(嘉保 3 年 11 月 24 日) 永長地震(嘉保地震、東海道沖の地震または南海トラフ全域)-M8-8.5、東大寺の鐘が落下、伊勢安濃津は津波で多く損じ(『中右記』)、駿河で民家 400 余流失など(『後二条師通記』)、1099 年康和地震が南海道沖の地震でないなら本地震が南海道沖の地震も含むものであった可能性がある
- 1099 年 2 月 16 日(2 月 22 日)(承德 3 年 1 月 24 日) 康和地震(承德地震、南海道沖の地震)-M6.4-8.5、興福寺、天王寺に被害、死者不明、『広橋本兼仲卿記』の紙背文書にある、康和 2 年 1 月 X4 日に土佐で田畑海没した記録が日付の誤記で本地震によるとされた、津波被害は不明、南海道沖の地震とされたが、**疑義があり畿内の地震の可能性もある**

12 世紀

- 1154 年 9 月 19 日(9 月 26 日)(仁平 4 年 8 月 10 日) 富山付近で地震-新川郡で陥没、死傷者多数と称す(『越中古文抄』)
- 1185 年 8 月 6 日(8 月 13 日)(元暦 2 年 7 月 9 日) 文治地震(元暦大地震)-M7.4、死者多数、法勝寺や宇治川の橋など損壊、余震が 2 か月ほど続く、琵琶湖の水が北流したという記録がある『方丈記』、南海トラフ巨大地震説もあるが、記録は内陸地震の様相であり琵琶湖西岸断層帯南部の活動による説がある、長浜市の塩津港遺跡はこの地震(堅田断層による)液状化でできたもの

(1200 年ごろ 地質調査により**南海トラフ地震が発生した可能性もあるが疑義あり**)

13世紀

- 1241 年 5 月 15 日(5 月 22 日)(仁治 2 年 4 月 3 日)鎌倉で地震-M7、津波を伴い由比ヶ浜大鳥居内
拝殿流失
- 1245 年 8 月 19 日(8 月 26 日)(寛元 3 年 7 月 26 日今夜丑剋)京都で地震、屋々に破損多し(理科
年表では 8 月 27 日)
- 1257 年 10 月 2 日(10 月 9 日)(正嘉元年 8 月 23 日)正嘉地震-M7-7.5、関東南部に大きな被害、
同日に三陸沿岸に津波襲来し野田海と久慈の海に津波(『岩手県沿岸大海嘯取調書』)
- 1293 年 5 月 20 日(5 月 27 日)(正応 6 年 4 月 13 日)鎌倉大地震(永仁鎌倉地震)-M8 クラスの相模
トラフ巨大地震との説、建長寺などで火災発生、死者 2 万 3000 人あまり、余震多発
- 1299 年 5 月 25 日(6 月 1 日)(正安元年 4 月 25 日)大阪・京都で地震、天王寺金堂・南禅寺堂社倒
れる

14世紀

- 1317 年 2 月 16 日(2 月 24 日)(正和 6 年 1 月 5 日)京都で地震-M6.5-7、清水寺出火、死者 5 人
2 日前の 2 月 22 日にも京都で大地震
- 1325 年 11 月 27 日(12 月 5 日)(正中 2 年 10 月 21 日)正中地震-M6.5±1/4、越前敦賀郡氣比神
宮倒潰、竹生島の一部が崩れる、**柳ヶ瀬断層を震源とする説は、トレンチ調査の結果と一致しない**
- 1331 年 8 月 7 日(8 月 15 日)(元弘元年、元徳 3 年 7 月 3 日)紀伊で地震 -M7.0 以上、千里浜隆起
- 8 月 11 日(8 月 19 日)(元弘元年、元徳 3 年 7 月 7 日)元弘地震(東海地震)-M7、**富士山頂崩れ**
る(『太平記』)。
- 1350 年 6 月 28 日(7 月 6 日)(正平 5 年 5 月 23 日)京都の祇園社の石塔の九輪が落ち砕けた-M6
- 1360 年 11 月 13 日・14 日(11 月 21 日・22 日)(正平 15 年、延文 5 年 10 月 4 日・5 日)紀伊・摂津地
震(東南海地震)-M7.5-8.0、**存在がほぼ否定**、4 日と 5 日に大地震、6 日朝に津波で熊野から摂津
まで大荒れも、記録は疑わしく地震の存在は疑問視
- 1361 年 7 月 24 日(8 月 1 日)(正平 16 年、康安元年 6 月 22 日)畿内で強い揺れ、法隆寺の築地多
少崩れる、東海道沖の地震と考えたほうが自然
- 7 月 26 日(8 月 3 日)(正平 16 年、康安元年 6 月 24 日)正平・康安地震(南海道沖または、一部東海
道沖を含む、震源域諸説あり)-M8+1/4-8.5、死者多数、摂津・阿波で津波により大きな被害(『太平
記』)、土佐で正興寺の古文書が流される

15世紀

- 1408 年 1 月 12 日(1 月 21 日)(応永 14 年 12 月 14 日)応永地震-M7-8、京都で地震。熊野本宮の
温泉湧出が、80 日間止まるなど**紀伊・伊勢の記録は疑わしい**
- 1433 年 10 月 28 日(11 月 6 日)(永享 5 年 9 月 16 日)永享相模の地震-M7 以上、死者多数。津波
により利根川が逆流。
- 1449 年 5 月 4 日(5 月 13 日)(文安 6 年 4 月 12 日)山城・大和地震-M5+3/4-6.5、死者多数。
- 1454 年 12 月 12 日(12 月 21 日)(享徳 3 年 11 月 23 日夜半)享徳地震-Mw>8.4 会津などで強震、奥
州海岸に大津波で人が多く流される(『王代記』)。15 世紀と見られる津波堆積物との関連性が指摘
「理科年表」は 2023 年版から記載。
- 1455 年 12 月 29 日(1455 年 1 月 7 日)(享徳 3 年 12 月 10 日)-鎌倉で余震とみられる大地震(『鎌倉
大日記』)。
- 1474 年終盤 - 1475 年初頭(文明 6 年冬)京都で大地震。
- 1495 年 9 月 3 日(9 月 12 日)(明応 4 年 8 月 15 日)-鎌倉大仏殿に津波が入り堂舎屋が破壊された

と記録されている(『鎌倉大日記』)。この記録が明応7年の明応地震の混同として扱われて、従前の「理科年表」には記載がなかったが、2023年版から記載。地層や史料の調査から、相模トラフを震源とする関東地震の可能性が示唆

- 1498年6月30日(7月9日)(明応7年6月11日)日向地震 -M7-7.5、九州で屋舎倒れ山崩れの記録(『九州軍記』)。同日、畿内でも地震。南海道沖の地震との説もあるが、史料の無理な解釈が含まれ、『九州軍記』の記述を話半分に聞けば九州付近で起こったスラブ内地震であるという解釈も可能。『九州軍記』は後の創作である可能性が高く日向灘の震源は否定されるとの見方がある。
- 9月11日(9月20日)(明応7年8月25日)明応地震(東海道沖の巨大地震)-M8.2-8.4、『林叟院創記』に溺死者2.6万人とあり、『内宮子良館記』には5千人余流死、伊勢、志摩では1万人溺死。伊勢・駿河などで津波により大きな被害、浜名湖が海と繋がる、鎌倉高德院の大仏殿が押し流される記録は明応4年。地質調査によればほぼ同時期に南海道沖が震源域となった可能性もあるが疑問。南海トラフ沖にある長さ約300kmの海底活断層による地震の可能性はある。

16世紀

- 1502年1月18日(1月28日)(文亀元年12月10日)越後地震 - M6.5 - 7.0、死者多数。
- 1510年9月11日(9月21日)(永正7年8月8日)摂津・河内地震 - M6.5 - 7.0、死者あり。余震が2か月あまり続く。
- 1520年3月25日(4月4日)(永正17年3月7日)永正地震 - M7.0 - 7+3/4。紀伊・京都で地震。熊野・那智の寺院が破壊、津波あり。
- 1585年7月31日(天正13年7月5日) - M7程度以上、大阪・京都・伊勢・三河で大震(『家忠日記』など)阿寺断層の活動も候補になる。
- 1586年1月16日(天正13年11月27日)飛騨で地震 - M7.0 ± 0.2、天正地震に先だち発生。飛騨・越中などで山崩れ多発、白川郷で民家数百軒が埋まる。内ヶ島氏、帰雲城もろとも滅亡。
- 1月18日(天正13年11月29日)天正地震(東海東山道地震、飛騨・美濃・近江地震)-M7.8-8.1(8クラスの地震と7クラスの地震が接近して発生した可能性)、死者多数。余震が1年以上続く。三河湾と若狭湾の日本海・太平洋両岸での大津波記録が複数あり、複数の地震の同日発生の可能性。養老断層(愛知県)の活動の可能性が高い。阿寺断層(岐阜県)が活動した説もあるが、史料の詳細検討による震度分布から否定される。さらに若狭湾に津波をもたらした断層も活動したと考えられ、3つのセグメントで地震が同日に3つ以上発生した可能性。
- 1590年3月21日(天正18年2月16日)安房で地震 - 2mの隆起あり。潮が引いて3kmの干潟が形成。
- 1596年以下の3つは連動型地震の可能性。
 - 9月1日(文禄5年閏7月9日)慶長伊予地震(慶長伊予国地震)-M7.0、寺社倒壊など。同年同月に発生した一連の内陸地震のさきがけ四国を走る中央構造線断層帯での地震と考えられている。ただし次の豊後地震と同一の可能性。
 - 9月1日又は9月4日(文禄5年閏7月9日又は閏7月12日)慶長豊後地震(大分地震)-M7.0 -7.8、死者710人、地震によって瓜生島と久光島の2つの島が沈んだと伝わる。大分県を走る別府-万年山断層帯での正断層型地震。
 - 9月5日(文禄5年閏7月13日)慶長伏見地震(慶長伏見大地震、文禄の大地震)-M7+1/2±1/4、京都や堺で死者合計1,000人以上。伏見城の天守閣や石垣が損壊、余震が翌年春まで続く。淡路島-神戸-大阪北を走る六甲・淡路島断層帯や有馬-高槻断層帯での地震と考えられている。

17世紀

- 17世紀前半、津波堆積物の分析から、この時期に千島海溝南部(十勝沖から根室沖まで)を震源とす

- るM8.6クラスの地震が発生したと推定されている(17世紀型の地震)。1611年または1635年説あり。
- 1605年2月3日(慶長9年12月16日)慶長地震(南海トラフ津波地震説、東海はるか沖地震説、又は房総沖と南海沖の二元地震説、伊豆・小笠原海溝地震説あり)-M7.9-8、関東から九州までの太平洋岸に津波、紀伊・阿波・土佐など大きな被害。八丈島でも津波死者数十人。宍喰で死者1500人余或は3800人余の記録もあるが人口から死者は過大とされ津波以外の被害は確認されていない。
 - 1608年12月30日(慶長13年11月23日)仙台で地震。-男女50人死亡。
 - 1611年9月27日(慶長16年8月21日)会津地震 - M6.9、死者3,700人。
 - 12月2日(慶長16年10月28日)慶長三陸地震-M8.1(Mw>8.5)。三陸沖(日本海溝付近)の地震と考えられた、十勝・根室沖(千島海溝)のM9クラスとの説もある。一方、東北地方太平洋側で繰り返し発生らと推定されM9クラスの地震の候補ともされ伊達領で大津波による死者約2,000-5,000人。
 - 1614年11月26日(慶長19年10月25日)広い範囲で地震-M7.7。畿内以外の記事は後世の信憑性の劣る史料であり、死者が出た京都付近の局所的な地震ともされる。南海トラフの巨大地震とする説あり。震域は会津、伊豆、紀伊、山城、松山諸国まで及んだ。越後高田藩では地震と津波により死者多数とする記録もあるが疑わしい、京都で寺社・民家が多数壊れ同日に、伊豆と小田原と広い範囲で有感。津波が発生し千葉県銚子市の飯沼観音の境内まで到達したとの記録がある。池上本門寺五重塔が傾く。
 - 1615年6月26日(慶長20年6月1日)慶長江戸地震 - M6+1/4 - 3/4、小田原、江戸で被害。
 - 1616年9月9日(元和2年7月28日)宮城県沖地震-M7.0、仙台城が破損。三陸地方で大津波。
 - 1619年5月1日(元和5年3月17日)肥後(熊本)八代で地震-M6.0。卯の刻と牛刻の2回の地震で旧八代城(麦島城)が倒壊、竹田城(大分県)が破損。
 - 1625年7月21日(寛永2年6月17日)熊本地震-M4-6、死者約50人。地震動により火薬庫爆発し、熊本城が破損。
 - 1627年10月22日(寛永4年9月14日)松代地震 - M6.0±1/2
- ※存在がほぼ否定される幽霊地震。家屋倒壊、死者ありも、宝永地震を転記の際に生じた誤りとの説。
- 1628年8月10日(寛永5年7月11日)江戸で大きな地震があり、江戸城の石垣が壊れた - M6.0。
 - 1633年3月1日(寛永10年1月21日)寛永小田原地震(相模・駿河・伊豆地震)-M7.1あるいはM7.0±1/4、小田原で大きな被害を出し死者110 - 150人。駿河・熱海に津波。
 - 1635年3月12日(寛永12年1月23日)江戸で地震 - M6.0前後、大きな被害。
同日に蝦夷で強震(『福山秘府』)。上記17世紀前半の津波堆積物を1611年とする説がある一方で、1635年とする説もある。
 - 1640年11月23日(寛永17年10月10日)加賀大聖寺地震(石川県加賀市)-M6+1/4 - 3/4、死者多数。
 - 1644年10月18日(寛永21年9月18日)羽後本荘 - M6.5±1/4、象潟で津波死者117名。本荘城廊が大破。
 - 1646年6月9日(正保3年4月26日)M7.6、仙台城の石壁100m以上崩れ、3階の陣櫓3基が倒れ。白石城の石壁・櫓が破損
 - 1647年6月16日(正保4年5月14日)丹沢で地震-M6.5±1/4、江戸城の石垣や大名屋敷など破損。小田原城に大きな被害。
 - 1648年6月13日(慶安元年4月22日)相模・江戸で地震-M7.0程度。小田原城破損、箱根で落石、死者1名。ただし、江戸での被害疑問とする見解もある。
 - 1649年3月17日(慶安2年2月5日)安芸・伊予で地震-M7.0±1/4。松山城、宇和島城の石垣や塀が崩れる。

- ・7月30日(慶安2年6月21日)慶安武蔵地震-M7.1あるいはM7.0±1/4、武蔵・下野で地震。死者多数。
- ・9月1日(慶安2年7月25日)武蔵で地震 - M6.4程度。川崎宿で大きな被害。
- ・1655年5月2日(明暦2年4月8日)房総沖地震 - 千葉県で津波の記録あり。
- ・1659年4月21日(万治2年2月30日)会津で地震 - M6+3/4 - 7.0、死者あり。
- ・1662年6月16日(寛文2年5月1日)10時ごろ 寛文近江・若狭地震(寛文地震)-小浜で城の櫓・多門・石垣・蔵の破壊。三方断層の活動と考えられる。熊川宿の被害も大きく、熊川断層も活動した可能性が高い。
12時ごろ 畿内・丹後・東海西部地震、寛文の琵琶湖西岸地震、近江・山城地震-M7+1/4 - 7.6、上の地震に引き続いて花折断層が活動したと考えられる。死者は倉川榎村で300余、京都で200余など。京都の大仏殿が小破。
- ・10月31日(寛文2年9月20日)外所地震(日向・大隅地震)-M7+1/2-7+3/4 又は M7.2-7.5、死者あり。
- ・1664年(尚質王17年)琉球島島で地震、死者があり、海底火山の噴火、津波があった。
- ・1666年2月1日(寛文5年12月27日)越後高田地震 - M6+3/4 前後、死者1,400 - 1,500人。
- ・1670年6月22日(寛文10年5月5日)西蒲原地震 - M6+3/4 前後、死者13人、江戸でも有感。
- ・1671年2月27日(寛文11年1月18日)紀伊水道沖で地震-M7.3、畿内、山陽道、南海道で強震、南海道に小津波。
- ・1676年7月12日(延宝4年6月2日)延宝石見地震 - M6.5 前後、津和野城の石垣が崩れ、領内で潰家133、死者7人。
- ・1677年4月13日(延宝5年3月12日)延宝八戸沖地震 - 陸奥、陸中、八戸沖(青森県東方沖)で地震 - M7+1/4 - 8.0、津波あり、三陸沖北部の固有地震。
- ・11月4日(延宝5年10月9日)延宝房総沖地震(延宝地震)-M8.0 前後(Mw8.5)、死者500-600人。福島県-千葉県に津波(茨城県地方史上最大の津波被害)。
- ・1678年10月2日(延宝6年8月17日)宮城県北部沖で地震-M7.5 前後、死者1人、東北地方の広範囲で被害。
- ・1683年6月17日-10月20日(天和3年5月23日-9月1日)日光地震 - 栃木県北部、日光付近で群発地震。規模の大きなものは、6月17日にM6.0-6.5、6月18日にM6.5-7.0、10月20日にM7.0±1/4の地震が発生。10月20日の地震では、五十里村で生じた山崩れが河川を塞ぎ湖が生じた(五十里湖)。この堰止湖は40年後の1723年の台風によって決壊し、鬼怒川下流において死者約1,200人の被害をもたらした(五十里洪水)。震源断層は関谷断層である可能性が指摘されている。
- ・1686年1月4日(貞享2年12月10日)安芸・伊予で地震-M7.0-7.4、広島県中西部を中心に被害、死者あり。
- ・10月3日(貞享3年8月16日)遠江・三河地震-M7.0±1/4 又は M6.6-6.7[107]、死者あり。
- ・1694年6月19日(元禄7年5月27日)能代地震 - M7.0、陸奥で山崩れなど。死者394人。
- ・1696年11月25日(元禄9年11月1日)-M6.5程度。石巻河口に津波、300隻をさらい、溺死者多数。地震記事は未確認。
- ・1700年4月15日(元禄13年2月26日)壱岐・対馬地震-M7.3、石垣・家屋が倒壊。福岡・佐賀・長崎でも被害。

18世紀

- ・1703年12月31日(元禄16年11月23日)元禄地震(元禄関東地震)-M8.1-8.2(Mw8.1-8.5)、関東南部に津波。死者6,700人、潰家、流家約28,000軒(『楽只堂年録』)(死者20万人『鸚鵡籠中記』)。

- 豊後で地震-M6.5±1/4、元禄地震の約2時間後に発生。府内領で潰家273軒、死者1人、由布院でも潰家。
- 1704年5月27日(宝永元年4月24日)羽後・陸奥で地震-M7.0±1/4、野代(現能代市周辺)の被害大。死者58人。十二湖を生じた。
 - 1705年5月24日(宝永2年閏4月2日)阿蘇山付近で地震 - 阿蘇坊で破損多く、死者があった。岡城の石垣が破損。
 - 1707年10月28日(宝永4年10月4日)13-14時ごろ宝永地震(南海トラフ全域が震源域)-M8.4-8.6(Mw8.7~9.3)、死者4,900-2万人以上、倒潰・流出家屋6万-8万軒とされるが全体像は不明。関東から九州までの太平洋岸、瀬戸内海、大坂に津波、東海道宿場町で家屋倒壊・伊豆・伊勢・紀伊・阿波・土佐沿岸各地が津波で亡所となる大きな被害(『楽只堂年録』、『谷陵記』)。地震から49日後に**富士山の宝永大噴火**。道後温泉の湧出が数か月間止まる。
 - 10月29日(宝永4年10月5日)宝永富士宮地震-富士宮で地震、M6.7-7.0、宝永地震の16時間後、明朝に発生、東海道宿場町で家屋倒壊など被害。村山浅間神社および社領の家が残らず潰れ、村山で死者4人(『楽只堂年録』)。宝永地震の最大余震。
 - 11月21日(宝永4年10月28日)周防・長門で地震-M5.5、上徳地村で潰家289、死者3人(『毛利十一代史』)。
 - 1708年2月13日(宝永5年1月22日)紀伊半島沖で地震-M7クラス、紀伊、伊勢で津波。山田吹上町、一本木に及び、宮川堤防が破れた。宝永地震の余震と推定。
 - 1710年10月3日(宝永7年閏8月11日)因伯美地震-M6.5程度、山崩れなど。死者多数。
 - 1711年3月19日(宝永8年2月1日)伯耆・美作で地震-M6+1/4、大山で山崩れ、伯耆・美作で潰家、死者4人。鳥取地震の起り方に類似。
 - 1714年4月28日(正徳4年3月15日)信濃小谷地震-信濃北西部で地震、M6+1/4、山崩れなど。死者56人。
 - 1715年2月2日(正徳4年12月28日)大垣・名古屋・福井で地震-M6.5-7.0。
 - 1716年11月9日(享保元年9月26日)霧島山(新燃岳)大噴火**
 - 1717年5月13日(享保2年4月3日)宮城県沖で地震-M7.5、陸前、陸中で津波や液状化により被害。
 - 1718年8月22日(享保3年7月26日)遠山地震-M7.0、三河、伊那遠山谷で地震。遠山川の河道閉塞が後日決壊し、死者50人。
 - 1723年12月19日(享保8年11月22日)肥後・筑後で地震-M6.5、肥後で潰家400、死者2人、筑後、豊後でも潰家。
 - 1725年8月14日(享保10年7月7日)高遠・諏訪で地震-M6.0-6.5、諏訪高島城の石垣・堀・門壊れる。山崩れも、死者4人。
 - 1729年8月1日(享保14年7月7日)能登・佐渡地震- M6.6 - 7、死者少なくとも5人。
 - 1730年11月11日(享保15年10月2日)常陸沖で地震 - M7.3、津波で船の流失あり。
 - 1731年10月7日(享保16年9月7日)宮城県南部で地震 - M6.5、死者数名、家屋が倒壊。
 - 1741年8月29日(寛保元年7月19日)寛保津波 - M6.9(Mt8.4)、死者2,033人。北海道西南沖の大島で火山性地震。大津波発生、佐渡・能登・若狭にも津波。**
 - 1741年8月29日(寛保元年7月19日)渡島大島大噴火・津波**
 - 1751年5月21日(寛延4年4月26日)高田地震-M7.0-7.4、死者1,541人。越後・越中で地震。高田で火災など。
 - 1762年10月31日(宝暦12年9月15日)佐渡沖地震-M7.0程度、死者あり。液状化現象、津波に

よる家屋流出など。

- 1763年1月29日(宝暦12年12月16日)宝暦八戸沖地震-M7.4-7.9、津波あり。三陸沖北部の固有地震[103]。
- 3月11日(宝暦13年1月27日)八戸東方沖で地震-M7.3、津波あり。宝暦八戸沖地震の最大余震。
- 3月15日(宝暦13年2月1日)青森県東方沖で地震-M7.0。宝暦八戸沖地震の余震。
- 1766年3月8日(明和3年1月28日)津軽地震-M6.9あるいはM7+1/4±1/4、弘前城損壊など。死者約1,500人。津波が千葉県銚子に届いたとの記録。
- 1769年8月28日(明和6年7月28日)日向・豊後・肥後で地震-M7+3/4±1/4、M7.2]又はM7.4、大分城で被害多く、熊本領内でも被害あり。津波あり。
- 1771年4月24日(明和8年3月10日)八重山地震(明和の大津波)-M7.4-8.0(Mt8.5, Mw8.7)、死者約12,000人。津波の最大遡上高85m(日本記録『大波之時各村之形行書』)が疑わしい。安房まで津波の到達と記録あり。
- 1772年6月3日(明和9年5月3日)陸前・陸中で地震-M6.8-7.4、花巻城で所々破損、江戸でも有感。死者12人。やや深い地震の可能性あり。
- 1779年11月8日(安永8年10月1日)桜島安永大噴火
- 1780年7月30日(安永9年6月19日)庄内地方で地震-M6.5-7.4、酒田で土蔵、家が潰れ、死者2人。
- 1782年8月23日(天明2年7月15日)天明小田原地震-M7.0、住宅約800破損、小田原城損壊。
- 1783年4月10日(天明3年3月9日)伊豆諸島・青ヶ島噴火
- 1786年3月22日-3月23日箱根山で2日間で100回以上の群発地震(有史以来の初記録)。
- 1789年5月11日(寛政元年4月17日)阿波で地震-M7.0±0.1、土佐室津に津波。
- 1783年6月8日アイスランド・ラキ火山大噴火
- 1783年8月4日(天明3年7月7日)浅間山・天明大噴火
- 1791年7月23日(寛政3年6月23日)信濃松本で地震-M6+3/4程度、松本城櫓・石垣、民家400余崩れ。松本で震度6と推定される。
- 1792年5月21日(寛政4年4月1日)雲仙岳・眉山大崩壊「島原大変肥後迷惑」
- 1792年5月21日(寛政4年4月1日)島原大変肥後迷惑-長崎県島原半島で雲仙普賢岳の噴火が起こり、眉山の山体崩壊による対岸の肥後国(熊本県)大津波。M6.4±0.2、死者約15,000人。
- 6月13日(寛政4年4月24日)後志地震-北海道後志神威岬沖合で地震。M≒7.1又はM7.3。小樽から積丹(しゃこたん)岬にかけての地域で揺れを感じ、津波が発生したとされている。日付を5月24日とする文献もある(『北海道史』)。
- 1793年2月8日(寛政4年12月28日)西津軽地震(鯨ヶ沢地震)-M6.9-7.1。西津軽・鯨ヶ沢で強震、津軽山地西縁断層帯が震源で、地震発生前に海水が引く前兆現象があり。津波による死者3人。
- 2月17日(寛政5年1月7日)寛政地震(連動型宮城県沖地震)-M8.0-8.4、死者100人程度、陸中から常陸にかけて津波。
- 1799年6月29日(寛政11年5月26日)金沢地震-M6.0±1/4又はM6.7[123]。金沢などで地震。死者640人、その他の地域でも死傷者あり。

19世紀前半

- 1801年5月27日(享和元年4月15日)上総地震-久留里城が破損。
- 1802年12月9日(享和2年11月15日)佐渡小木地震-M6.5-7.0、死者37人。
- 1804年7月10日(文化元年6月4日)象潟地震-M7.0±0.1、死者500から550人。象潟で2mの地盤隆起と3-4mの津波。

- ・1808年12月4日(文化5年10月17日)紀伊半島沖で地震-M7.6、深夜に2度の強い揺れ。紀伊半島から四国にかけて弱い津波。2004年の地震に類似[125][126]。
- ・1810年9月25日(文化7年8月27日)男鹿半島で地震-M6.5±1/4、死者60人
- ・1812年12月7日(文化9年11月4日)文化神奈川地震-M6+1/4±1/4 または M6.4、震源は東京湾、神奈川宿を中心に死者多数。
- ・1814年2月1日フィリピン・マヨン山噴火
- ・1815年4月10日インドネシア・タンボラ火山大噴火
- ・1819年8月2日(文政2年6月12日)文政近江地震-M7+1/4±1/4 又は M6.9[107]、伊勢・美濃・近江で地震、死者多数。
- ・1821年12月13日(文政4年11月19日)岩代で地震-M6.5-7.0、岩沼湖周辺で震度6以上と推定される。死者若干名。
- ・1822年3月23日(文政5年2月1日)有珠山文政火砕流
- ・1823年9月29日(文政6年8月25日)陸中岩手山で地震-M5+3/4-6.0、山崩れあり、死者69人、不明4人。
- ・1826年1月(文政8年12月)小笠原諸島近海で地震 父島二見湾で津波の高さ推定6m[130]。
- ・1828年12月18日(文政11年11月12日)三条地震(越後三条地震) - M6.9、死者1,681人。
- ・1830年8月19日(文政13年7月2日)京都地震 - M6.5±0.2、死者280人。二条城など損壊。
- ・1833年5月27日(天保4年4月9日)美濃西部地震-M6+1/4 死者11人。余震は8月まで、震源は根尾谷断層付近。
- ・12月7日(天保4年10月26日)庄内沖地震(出羽・越後・佐渡地震、天保4年羽前沖地震)-M7+1/2±1/4(Mw8, Mt8.1)、死者40-130人。能登半島・東北・北陸の日本海沿岸に津波。1964年新潟地震の津波よりも規模が大きい。
- ・1834年2月9日(天保5年1月1日)石狩地震 - M6.4、イシカリ場所を中心に81戸が全半壊。JR札幌駅以北の複数個所で液状化の跡が見つかっているため、M6.5 - 6.6という説もある。
- ・1835年7月20日(天保6年6月25日)宮城県沖地震(仙台地震、天保大津波)-M7.0程度、死者多数。仙台城が損壊、津波ありとするも別の地震を混同した疑いあり。
- ・1839年5月1日(天保10年3月18日)釧路・厚岸で地震-M7.0程度、国泰寺門前の石灯籠が大破。津軽で強い揺れ。
- ・1843年4月25日(天保14年3月26日)天保十勝沖地震 - M7.5 - 8.0、死者46人。厚岸に津波。
- ・1847年5月8日(弘化4年3月24日)善光寺地震(弘化大地震) - M7.4。山崩れにより犀川の河道閉塞と閉塞部の決壊により洪水、死者約1万 - 1万3000人。
- ・5月13日(弘化4年3月29日)越後頸城郡(現在の新潟県上越市高田付近:高田平野東縁断層)を震源とする地震 - M6+1/2±1/4、死者20人以上。善光寺地震の誘発地震。

19世紀後半

- ・1853年3月11日(嘉永6年2月2日)小田原地震(嘉永小田原地震)-M6.7±0.1、死者約20 - 100人。
- ・1854年7月9日(嘉永7年6月15日)1時ごろ伊賀上野地震(伊賀・伊勢・大和地震) - M7+1/4±1/4、死者約1,800人。7時ごろ伊賀上野地震の最大余震 - M6.8。上野・奈良などで震度6と推定される。
- ・12月23日(嘉永7年11月4日)9時30分ごろ安政東海地震(東海道沖の巨大地震)-M8.4(Mw8.6)、死者2,000 - 3,000人とされるが詳細は不明。東海道宿場町で家屋倒壊・房総半島から四国に津波、特に伊豆から熊野にかけて大きな被害。ロシア船ディアナ号(プチャーチン提督来航)沈没。
- ・12月24日(嘉永7年11月5日)16時20分ごろ安政南海地震(南海道沖の巨大地震)-M8.4

(Mw8.7)、死者 1,000 - 3,000 人とされるが詳細は不明。紀伊・土佐などで津波により大きな被害(串本で最大波高 11m)。大坂湾に注ぐいくつかの川が逆流。道後温泉の湧出が数か月間止まる。稲むらの火のモデルとなった津波。

本震の約 4 時間後に津波を伴う「戌刻余震」が発生した。津波から規模は M7.9 と推定される。

安政東海・南海地震は約 31 時間の時間差で発生した。余震とみられる地震は 9 年間で 2,979 回記録(『真覚寺日記』)。

- 12 月 26 日(嘉永 7 年 11 月 7 日) 豊予海峡地震-M7.3-7.5。安政南海地震の約 41 時間後に発生、スラブ内地震とされている。
- 1855 年 2 月 16 日(安政元年大晦日)室戸半島付近で地震。高知などで強い揺れ。→Mw7 と推定。安政南海地震の余震とされる。『真覚寺日記』などによれば、この地震以降、余震の回数が急増した。
- 3 月 15 日(安政 2 年 1 月 27 日) 遠江・駿河で地震。-大井川の堤防が揺れ込。駿河清水で震度 6 と推定される。
- 3 月 18 日(安政 2 年 2 月 1 日) 飛騨地震-M6+3/4±1/4 又は M6.9[123]、死者少なくとも 203 人。金沢などでも被害。
- 6 月 8 日(安政 2 年 4 月 24 日)-Mw6.2、土佐南国の植田村で家屋の約 17%が倒壊し、震度 6 と推定 春野秋山で地震津波。安政南海地震の余震と推定される。
- 9 月 13 日(安政 2 年 8 月 3 日) 陸前で地震 - M7+1/4±1/4。
- 11 月 7 日(安政 2 年 9 月 28 日) 遠州灘で地震 - M7.1、安政東海地震の余震とされる。津波あり[
- 11 月 11 日(安政 2 年 10 月 2 日) 安政江戸地震(安政の大地震)-M7.0-7.1、死者 4,700-1 万 1000 人。
- 12 月 3 日(安政 2 年 10 月 24 日) - Mw7.2、紀伊紀伊田辺、土佐高知、宇佐、豊後佐伯の広い範囲で津波。津波地震と考えられる。
- 1856 年 3 月 8 日(安政 3 年 2 月 2 日) - Mw7.0、高知城下や宇佐で地震津波。安政南海地震の余震と推定される。
- 8 月 23 日(安政 3 年 7 月 23 日) 安政八戸沖地震 - M7.5 - 8.0(Mw8.3)、三陸および北海道に津波。死者 29 人。三陸沖北部の固有地震。
- 1857 年 7 月 14 日(安政 4 年閏 5 月 23 日) 駿河で地震 - M6+1/4±1/4、駿河田中で塀・石垣破損、島田で潰家。死者 8 人。
- 10 月 12 日(安政 4 年 8 月 25 日) 伊予・安芸で地震 - M7+1/4±0.5、今治で城内破損、死者 5 人。
- 1858 年 4 月 9 日(安政 5 年 2 月 26 日) 飛越地震-M7.0-7.1 または M7.3 - 7.6。地震による直接の死者数百人、常願寺川がせき止められ後日決壊、それによる死者 140 人。
- 4 月 23 日(安政 5 年 3 月 10 日) 信濃大町で地震 - M5.7±0.2 - 6.2。信濃大町付近の平・青具・千見などで震度 6 以上と推定される。
- 7 月 8 日(安政 5 年 5 月 28 日) 東北地方太平洋側で地震 - M7.0 - 7.5。
- 1861 年 2 月 14 日(万延 2 年 2 月 14 日) 文久西尾地震-M6.0、愛知県西尾市から岡崎市にかけて最大震度 5 強。内陸直下型地震、震源位置が三河地震とほぼ同じで、安政東海地震の誘発地震。
- 10 月 21 日(文久元年 9 月 18 日) 宮城県沖地震-M6.4 又は M7.2 程度、津波、家屋倒壊、死者あり。
- 1872 年 3 月 14 日(明治 5 年 2 月 6 日) 浜田地震 - M7.1±0.2、死者 552 人。
秋ごろ 小笠原諸島近海で地震 - 父島二見湾で津波の高さ推定 3m。
- 1880 年(明治 13 年)2 月 22 日 横浜地震 - M4.5 - 6.0、煙突多数倒壊。地震学会(現在の日本地震学会。世界初の地震学会)が結成されるきっかけになる。
- 1881 年(明治 14 年)10 月 25 日 国後島で地震 - M7.0、津軽でも揺れる。

・1888年7月15日(明治21年7月15日)磐梯山大噴火

- ・1889年(明治22年)7月28日 熊本地震 - M6.3、死者20人。
- ・1891年(明治24年)10月28日 濃尾地震 - M8.0、濃尾平野北西部などで最大震度7相当と推定。死者・行方不明者7,273人。根尾谷断層の発生。
- ・1892年(明治25年)12月9日・11日 石川県・富山県で地震 - M6.4(9日)、弱い津波。死者計2人。
- ・1893年(明治26年)6月4日 色丹島沖地震 - M7.7 - 8、色丹島で2m - 3mの津波。
- ・1894年(明治27年)3月22日 根室半島沖地震 - M7.9 - 8.2 (Mt8.2)、死者1人。北海道・東北に津波。
- ・6月20日 明治東京地震 - M7.0、死者31人。
- ・10月22日 庄内地震 - M7.0、山形県庄内地方の一部で最大震度7相当と推定。死者726人。
- ・1895年(明治28年)1月18日 霞ヶ浦付近で地震 - M7.2、死者6人。
- ・1896年(明治29年)1月9日 茨城県沖で地震 - M7.3[148]。
- ・6月15日 明治三陸地震(三陸沖地震) - M8.2 - 8.5 (Ms7.2 - 7.9, Mw8.5, Mt8.6)、津波地震、死者・行方不明者2万1959人。
- ・6月16日 三陸沖で地震 - M7.5の地震が2回発生。明治三陸地震の最大余震。
- ・8月31日 陸羽地震 - M7.2、一部地域で震度7相当と推定。死者209人。
- ・1897年(明治30年)2月20日 宮城県沖地震(仙台沖地震) - M7.4、地割れや液状化、家屋に被害。
- ・8月5日 三陸沖で地震 - M7.7 (Mw7.8)、宮城県や岩手県で津波により浸水被害。
- ・1898年(明治31年)4月23日 宮城県沖で地震 - M7.2、北海道から近畿にかけて有感、岩手県と宮城県の県境付近で被害。
- ・9月1日 石垣島東方沖(多良間島沖)で地震 - M7.0。
- ・1899年(明治32年)3月7日 紀伊大和地震 - M7.0 または M6.9、木ノ本・尾鷲で死者7名、三重県を中心に近畿地方南部で被害。深さ40 - 50kmのフィリピン海プレート内の地震。
- ・11月25日 日向灘で地震 - 3時34分にM7.1、3時55分にM6.9。
- ・1900年(明治33年)5月12日 宮城県北部で地震 - M7.0、死傷者17人、家屋などに被害。

・1900年7月17日(明治33年7月17日)安達太郎山噴火

20世紀前半

注:2003年9月17日に気象庁マグニチュードの算出方法が改訂され、1924年以降に発生した地震を改訂した修正前の値を括弧書きで記載(例:2000年0月0日 地震 - Mj6.8(旧 Mj6.5))

1900年代

- ・1901年(明治34年)8月9日 - 10日 青森県東方沖で地震 - 8月9日にM7.2、8月10日にM7.4。死者18人。
- ・1902年(明治35年)1月30日 青森県三八上北地方で地震 - M7.0、死者1人。
- ・1902年5月8日 プレー火山噴火
- ・1902年8月10日(明治35年)伊豆諸島大噴火
- ・1905年(明治38年)6月2日 芸予地震 - M7.2、死者11人。
- ・7月7日 福島県沖で地震 - M7.1。
- ・1906年4月7日 イタリア・ヴェスヴィオ山噴火
- ・1909年(明治42年)3月13日 千葉県房総半島沖で地震 - 8時19分にM6.5、23時29分にM7.5。
- ・8月14日 姉川地震(江濃地震) - M6.8、死者41人。
- ・8月29日 沖縄本島付近で地震 - M6.2、死者2人。
- ・11月10日 宮城県西部で地震 - M7.6。

1910年代

- 1911年(明治44年)6月15日 喜界島地震 - M8.0(Mb8.1)、死者12人。
- 1913年(大正2年)2月20日 日高沖で地震 - M6.9(Ms7.0)
- 1914年1月12日(大正3年)桜島・大正大噴火**
- 1914年(大正3年)1月12日 桜島地震 - M7.1、死者29人。**桜島大噴火**に伴い地震発生。
- 3月15日 仙北地震 - M7.1、死者94人。秋田県強首村(現大仙市)で最大震度7相当と推定。
- 1915年(大正4年)1月6日 石垣島北西沖で地震 - M7.4。
- 3月18日 北海道十勝沖で地震 - M7.0、死者2人。**
- 1915年6月6日(大正4年)焼岳噴火**
- 11月1日 宮城県沖で地震 - M7.5、岩手県や宮城県の沿岸に小津波。
- 1916年(大正5年)11月26日 明石付近で地震 - M6.1、死者1人。
- 1917年(大正6年)5月18日 静岡付近で地震 - M6.0、死者2人。
- 1918年(大正7年)9月8日 択捉島沖地震 - M8(Ms8.2, Mw8.3, Mt8.5)、死者24人。**

1920年代

- 1921年(大正10年)12月8日 龍ヶ崎地震 - 千葉県・茨城県県境付近で発生。M7.0。震源深さ60km程度。家屋倒壊、道路亀裂。
- 1922年(大正11年)4月26日 浦賀水道地震 - M6.8、死者2人。
- 12月8日 島原地震(千々石湾地震) - 1時50分にM6.9、11時02分にM6.5。長崎県橘湾で地震。長崎県を中心に各地で大きな被害。死者26人・負傷者39人。被害家屋2,000以上。
- 1923年(大正12年)6月2日 茨城県沖で地震 - Mj7.1、千葉県銚子市で最大震度4。
- 7月13日 九州地方南東沖で地震 20時13分 - Mj7.3 深さ44km。宮崎県宮崎市と鹿児島県鹿児島市で最大震度4。
- 9月1日 11時58分ごろ 関東地震(大正関東地震、関東大震災)-M7.9(Ms8.2, Mt8.0, Mw 7.9-8.0, Mw8.2)、関東地方南部と山梨県で最大震度6。神奈川県と千葉県南部のそれぞれ一部で震度7相当と推定。死者・行方不明者10万5385人(1925年の調査では14万2800人)(**日本災害史上最悪**)。本震3分後にM7.2、4.5分後にM7.3の地震が起こって地震動は10分以上続いている。12時3分ごろ相模湾で地震-Mj7.3、埼玉県熊谷市と山梨県甲府市で最大震度5、大正関東地震の余震。
- 9月2日 千葉県南東沖で地震-Mj7.(Mw7.8)、山梨県甲府市で最大震度5、大正関東地震の余震。
- 1924年(大正13年)1月15日 丹沢地震 - Mj7.3、死者19人。山梨県甲府市で最大震度6。大正関東地震の余震と見られている。
- 7月1日 北海道東方沖で地震 - Mj7.5、北海道根室市で最大震度4。**
- 8月15日 茨城県沖で地震 - Mj7.2、福島県いわき市で最大震度5。
- 1924年10月31日(大正13年)西表島北来た東海底火山大噴火**
- 12月27日 網走沖で地震 - Mj7.0、深さ150km、北海道根室市で最大震度4。**
- 1925年(大正14年)5月23日 北但馬地震 - Mj6.8、兵庫県豊岡市で最大震度6。火災発生、死者428人。
- 1926年5月24日(大正15年)十勝岳大噴火**
- 1926年(大正15年)6月29日 沖縄本島北西沖で地震 - Mj7.0、深さ150km。沖縄県那覇市で最大震度4。
- 8月7日 宮古島近海で地震 - Mj7.0、沖縄県石垣島で最大震度4。
- 1927年(昭和2年)3月7日 北丹後地震 - Mj7.3(Mw7.1)、京都府宮津市と兵庫県豊岡市で最大震

度 6。震源付近で震度 7 相当と推定。死者 2,925 人。

- ・1928 年(昭和 3 年)5 月 27 日 岩手県沖で地震 - Mj7.0、青森県青森市、岩手県宮古市・盛岡市で最大震度 4。

・1929 年 6 月 17 日(昭和 4 年)北海道駒ヶ岳大噴火

1930 年代

- ・1930 年(昭和 5 年)2 月 13 日 - 5 月 31 日 伊東群発地震 - 最大 Mj5.9。
- ・10 月 17 日 大聖寺地震 - Mj6.3、富山県高岡市で最大震度 5。死者 1 人。
- ・11 月 26 日 北伊豆地震 - Mj7.3、静岡県三島市で最大震度 6。震源断層付近などで最大震度 7 相当と推定。死者 272 人。丹那断層の活動とされる。
- ・2 月 20 日 日本海北部で地震 - Mj7.2、深さ 403km、北海道、岩手県、茨城県で最大震度 3。
- ・3 月 9 日 三陸沖で地震 - Mj7.2、北海道、青森県、岩手県で最大震度 4。
- ・9 月 21 日 西埼玉地震 - Mj6.9、埼玉県、群馬県、栃木県、茨城県で最大震度 5。死者 16 人。
- ・11 月 2 日 日向灘で地震、- Mj7.1、宮崎県、熊本県、山口県で最大震度 5。死者 2 人。
- ・1931 年 2 月 3 日ニュージーランド・ホークスベイ地震
- ・1932 年(昭和 7 年)9 月 23 日 日本海北部で地震 - Mj7.1、深さ 394km、北海道、青森県、岩手県で最大震度 3。
- ・1933 年(昭和 8 年)3 月 3 日 昭和 三陸地震(三陸沖地震) - Mj8.1(Mw8.4)、岩手県、宮城県、福島県、茨城県で最大震度 5。大津波が発生し、死者・行方不明者 3,064 人。アウターライズ地震。
- ・6 月 19 日 宮城県沖で地震 - Mj7.1。岩手県宮古市・盛岡市・水沢市、宮城県仙台市・石巻市で最大震度 4。宮城県沖地震の 1 つとみられる。
- ・9 月 21 日 七尾湾地震 - Mj6.0、富山県富山市・高岡市、石川県輪島市で最大震度 4。死傷者 60 人。
- ・1934 年(昭和 9 年)2 月 24 日 硫黄島近海で地震 - Mj7.1、福島県福島市、小笠原諸島父島で最大震度 1。
- ・1935 年(昭和 10 年)7 月 11 日 静岡地震 - Mj6.4、静岡県静岡市で最大震度 6。死者 9 人。
- ・10 月 18 日 三陸沖で地震 - Mj7.1、北海道、青森県、岩手県で最大震度 3。
- ・1936 年(昭和 11 年)2 月 21 日 河内大和地震-Mj6.4、京都府、大阪府、奈良県で最大震度 5。死者 9 人。
- ・11 月 3 日 宮城県沖地震(金華山沖地震) - Mj7.4、宮城県仙台市・石巻市、福島県いわき市で最大震度 5。ほぼ同規模の 1978 年宮城県沖地震と比較すると、死者皆無など遥かに小規模の被害、小津波あり。
- ・12 月 27 日 新島近海で地震 - Mj6.3、伊東市で最大震度 4。死者 3 人。
- ・1937 年(昭和 12 年)2 月 21 日 択捉島南東沖で地震 - Mj7.6、北海道函館市・釧路市・根室市、青森県青森市・八戸市で最大震度 2。
- ・7 月 27 日 宮城県沖で地震 - Mj7.1、宮城県石巻市で最大震度 5。宮城県沖地震の 1 つとみられる。
- ・1938 年 5 月 9 日(昭和 13 年)磐梯山で山崩れ
- ・1938 年(昭和 13 年)5 月 23 日 茨城県沖で地震 - Mj7.0(Mw7.7)、茨城県水戸市・石岡市、福島県福島市・いわき市・猪苗代町で最大震度 5。
- ・5 月 29 日 屈斜路路震 - Mj6.1、北海道・屈斜路湖付近で地震、北海道釧路市・根室市で最大震度 3。死者 1 人。
- ・6 月 10 日 宮古島北西沖で地震 - Mj7.2、沖縄県宮古島で最大震度 4。宮古島で 2m 前後の津波。
- ・11 月 5 日 - 7 日 福島県東方沖地震(塩屋崎沖地震、塩屋崎沖地震)-11 月 5 日 17 時 43 分に Mj7.5(Mw7.8)、同日 19 時 50 分に Mj7.3(Mw7.7)、11 月 6 日に Mj7.4(Mw7.7)、11 月 7 日に Mj6.9

(Mw7.6)。Mj7.5 の地震で福島県、茨城県、宮城県で最大震度 5、福島県で死者 1 人、東北から関東に津波。

- 1939 年(昭和 14 年)3 月 20 日 日向灘で地震 - Mj6.5、高知県、熊本県、大分県、宮崎県で最大震度 4。死者 1 人。
- 5 月 1 日 男鹿地震 - Mj6.8、秋田県秋田市と鷹巣通報所で最大震度 5。死者 27 人。

1940 年代

•1940 年 7 月 12 日(昭和 15 年)三宅島噴火

- 1940 年(昭和 15 年)8 月 2 日 積丹半島沖地震(神威岬沖地震)-Mj7.5(Mw7.7)、北海道羽幌町で最大震度 4。死者 10 人。
- 8 月 14 日 隠岐島近海で地震-Mj6.6(Mw7.0)、境港市東本町で最大震度 4。韓国でも有感。
- 1941 年(昭和 16 年)7 月 15 日 長野地震 - Mj6.1、長野県長野市で最大震度 6。死者 5 人。
- 11 月 19 日 日向灘で地震-Mj7.2、熊本県と宮崎県で最大震度 5。九州東岸、四国沿岸で津波 1m。死者 2 人。
- 1943 年(昭和 18 年)6 月 13 日 青森県東方沖で地震 - Mj7.1、北海道苫小牧市・浦河町、青森県青森市、八戸市で最大震度 4。
- 9 月 10 日 鳥取地震 - Mj7.2(Mw7.0)、鳥取県鳥取市で最大震度 6。推定では鳥取平野を中心に震度 7 相当。死者 1,083 人。
- 10 月 13 日 長野県北部で地震 - Mj5.9、新潟県高田市と長野県長野市で最大震度 4。死者 1 人。

•1944 年 6 月 23 日(昭和 19 年)昭和新山噴火開始

- 1944 年(昭和 19 年)12 月 7 日 東南海地震(昭和東南海地震)-三重県沖、Mj7.9(Mw8.2)、静岡県御前崎市、三重県津市で最大震度 6。静岡県袋井市付近、愛知県西尾市の旧矢作川流域で震度 7 相当と推定。死者・行方不明者 1,223 人、伊豆から紀伊にかけて津波。
- 1945 年(昭和 20 年)1 月 13 日 三河地震 - Mj6.8(Mw6.6)、三重県津市で最大震度 5。愛知県の一部で最大震度 7 相当と推定。死者・行方不明者 2,306 人、津波あり。
- 2 月 10 日 青森県東方沖で地震 - Mj7.1、青森県八戸市で最大震度 5。死者 2 人。

•1946 年 3 月 9 日(昭和 21 年)桜島・昭和噴火

- 1946 年(昭和 21 年)12 月 21 日 4 時 19 分ごろ 南海地震(昭和南海地震)-和歌山県沖-四国沖、Mj8.0(Mw8.4)、中部地方から九州地方にかけて最大震度 5。死者・行方不明者 1,443 人、房総から九州にかけて津波。

19 時 18 分ごろ 択捉島南東沖で地震 - Mj7.1、北海道浦河町潮見、釧路市、根室市で最大震度 2。

- 1947 年(昭和 22 年)4 月 14 日 択捉島南東沖で地震 - Mj7.1、北海道根室市で最大震度 2。
- 9 月 27 日 与那国島近海で地震 - Mj7.4、沖縄県石垣島で最大震度 5。死者 5 人。
- 1948 年(昭和 23 年)4 月 18 日 和歌山県南方沖で地震 - Mj7.0、和歌山県、兵庫県淡路島、徳島県で最大震度 4。昭和南海地震の最大余震。
- 6 月 15 日 紀伊水道で地震 - Mj6.7、東海地方、近畿地方、徳島県で最大震度 4。死者 2 人。
- 6 月 28 日 福井地震-Mj7.1(Mw7.0)、福井県福井市で最大震度 6。現在の震度階級では震度 7 相当とされる。死者・行方不明者 3,769 人。**この地震を機に気象庁が震度 7 を制定**
- 1949 年(昭和 24 年)7 月 12 日 安芸灘で地震 - Mj6.2、中国地方、四国地方、九州地方北部で最大震度 3。死者 2 人。
- 12 月 26 日 今市地震 - 8 時 14 分ごろに Mj6.2、8 時 24 分ごろに Mj6.4 の地震。8 時 27 分ごろの地震で茨城県、栃木県、埼玉県で最大震度 4。死者・行方不明者 10 人。

20 世紀後半

気象庁震度階級は体感震度と計測震度を併用、1996年4月からは計測震度計による機械観測で判定することにした、1996年10月からは震度6、震度5がそれぞれ強、弱の2段階に分けられた。

1950年代

- 1950年(昭和25年)2月28日 宗谷東方沖で地震 - Mj7.5、深さ343km。北海道浦河町・釧路市、青森県青森市・むつ市で最大震度4。
- 1951年(昭和26年)7月12日 小笠原諸島西方沖で地震 - Mj7.2、深さ490km。福島県、栃木県、千葉県、東京都で最大震度3。
- 1952年(昭和27年)3月4日 十勝沖地震 - Mj8.2(Mw8.2)、北海道浦河町・帯広市・本別町・釧路市で最大震度5。死者・行方不明者33人。北海道から東北に津波。
- 3月7日 大聖寺沖地震 - Mj6.5、富山県、石川県、福井県で最大震度4。死者7人。
- 7月18日 吉野地震-Mj6.7(旧Mj6.8)、中部地方から中国・四国地方にかけて最大震度4。死者9人。
- 1952年9月24日(昭和27年)明神礁噴火
- 1953年4月27日(昭和28年)阿蘇山噴火で死傷者多数
- 1953年(昭和28年)11月26日 房総沖地震 - Mj7.4、千葉県富崎村と東京都三宅島で最大震度5。
- 1955年(昭和30年)5月30日 硫黄島近海で地震 - 21時31分にMj7.2(深さ498km)、21時33分にMj7.5(深さ600km)の地震。21時33分の地震で福島県猪苗代町で最大震度3。
- 7月27日 徳島県南部地震 - Mj6.4、徳島県徳島市・日和佐町で最大震度4。死者1人。
- 1956年(昭和31年)9月30日 白石地震 - Mj6.0、福島県福島市で震度4、死者1名、蔵王山噴火のデマにより混乱。
- 1958年(昭和33年)3月11日 石垣島近海で地震 - Mj7.2、沖縄県宮古島・石垣島・西表島で最大震度5、死者2人。
- 1958年6月24日(昭和33年)阿蘇山噴火
- 11月7日 択捉島沖地震 - Mj8.1(Mw8.3)、北海道釧路市で最大震度5。太平洋岸各地に津波。

1960年代

- 1960年(昭和35年)3月21日 三陸沖で地震 - Mj7.2、青森県青森市・八戸市・むつ市、岩手県宮古市・盛岡市・雫石町・水沢市で最大震度4。
- 5月23日 チリ地震津波 - 南米チリ・バルディビア沖で発生した巨大地震に伴う津波。日本国内での死者142人。
- 1961年(昭和36年)2月2日 長岡地震 - Mj5.2、新潟県長岡市で最大震度4。死者5人。
- 2月27日 日向灘で地震 - Mj7.0、宮崎県宮崎市・日南市・都城市で最大震度5。死者2人。
- 8月12日 釧路沖で地震 - Mj7.2、北海道道東、浦河町で最大震度4。
- 8月19日 北美濃地震 - Mj7.0、中部地方から近畿地方にかけて最大震度4。死者8人。
- 1962年(昭和37年)4月23日 広尾沖地震 - Mj7.1、北海道帯広市・広尾町で最大震度5。(同年6月29日に十勝岳が噴火している)。
- 4月30日 宮城県北部地震 - Mj6.5、岩手県、宮城県、山形県、福島県で最大震度4。死者3人。
- 1962年6月29日(昭和37年)十勝岳大噴火
- 1963年(昭和38年)10月13日 択捉島沖地震 - Mj8.1(Mw8.3[146] - 8.5)、北海道浦河町・帯広市で最大震度4。択捉島から宮城県までで津波を観測。
- 1963年11月15日アイスランド・スルツェイ島出現
- 1964年(昭和39年)6月16日 新潟地震 - Mj7.5(Mw7.6)、死者26人。新潟県、山形県、宮城県、福島県で最大震度5。
- 1965年(昭和40年)4月20日 静岡地震 - Mj6.1、神奈川県、山梨県、静岡県で最大震度4。清水付

近で大きな被害、死者 2 人。

- 8月3日 - 1970年6月5日 松代群発地震 - 最大 Mj5.4(1966年4月5日)、全地震のエネルギーの総計は M6.4 相当。
- 1966年(昭和41年)3月13日 与那国島近海で地震 - Mj7.3、与那国島で最大震度 5、死者 2 人。
- 1968年(昭和43年)2月21日 えびの地震 - Mj6.1、熊本県人吉市で最大震度 5。死者 3 人。
- 4月1日 日向灘地震 - Mj7.5、高知県宿毛市と宮崎県延岡市で最大震度 5。死者 1 人。
- 5月16日9時48分ごろ 十勝沖地震 - Mj7.9(Mw8.3)、北海道、青森県、岩手県で最大震度 5、三陸沿岸で 5m の津波。死者・行方不明者 52 人。三陸沖北部の固有地震。19時39分ごろ 青森県東方沖で地震 - Mj7.5、北海道浦河町・広尾町で最大震度 5。1968年十勝沖地震の最大余震。
- 6月12日 三陸沖で地震 - Mj7.2、青森県、岩手県、宮城県で最大震度 4。1968年十勝沖地震の余震。
- 10月8日 小笠原諸島西方沖で地震 - Mj7.3、深さ 460km。福島県、茨城県、千葉県、東京都で最大震度 3。
- 1969年(昭和44年)8月12日 色丹島沖地震 - Mj7.8(Mw8.2)、北海道広尾町・釧路市・根室市で最大震度 4。
- 9月9日 岐阜県中部地震 - Mj6.6、長野県三岳村で最大震度 5。死者 1 人。

1970年代

- 1970年(昭和45年)5月27日 小笠原諸島西方沖で地震 - Mj7.1、深さ 350km[3]。福島県、千葉県、東京都で最大震度 3。
- 1971年(昭和46年)2月26日 新潟県上越地方で地震 - Mj5.5、新潟県上越市で最大震度 4。死傷者 13 人。
- 8月2日 十勝沖で地震 - Mj7.0、北海道浦河町で最大震度 5。
- 1972年(昭和47年)2月29日 八丈島東方沖で地震 - Mj7.0、東京都八丈島で最大震度 5。
- 12月4日 八丈島東方沖地震 - Mj7.2、東京都八丈島で最大震度 6。福井地震以来、震度 6 の観測事例が無く、この地震で 24 年ぶりに公式に震度 6 を観測した。
- 1973年1月23日 アイスランド・ヘルマエイ島噴火
- 1973年(昭和48年)6月17日 根室半島沖地震 - Mj7.4(Mt8.1、Mw7.8)、北海道釧路市、根室市で最大震度 5。津波地震。
- 6月24日 根室半島南東沖で地震 - Mj7.1、北海道釧路市で最大震度 5。根室半島沖地震の最大余震。
- 1974年(昭和49年)5月9日 伊豆半島沖地震 - Mj6.9、静岡県南伊豆町で最大震度 5、死者 30 人。
- 1974年7月28日(昭和49年)新潟八鬼山噴火
- 11月30日 鳥島近海で地震 - Mj7.3、深さ 454km[3]、福島県、千葉県、東京都で最大震度 4。
- 1975年(昭和50年)6月10日 北海道東方沖で地震 - Mj7.0(Mt7.9、Mw7.7)、北海道網走市・浦河町・釧路市・根室市で最大震度 1。色丹島で 4 - 3.5m、花咲港で 95cm の津波を観測。
- 6月29日 日本海西部で地震 - Mj7.3、深さ 570km、埼玉県秩父市で最大震度 3。
- 1977年8月7日(昭和52年)有珠山大噴火
- 1978年(昭和53年)1月14日 伊豆大島近海の地震 - Mj7.0、東京都伊豆大島と神奈川県横浜市で最大震度 5、死者 25 人。
- 3月7日 東海道南方沖で地震 - Mj7.2、深さ 440km、栃木県宇都宮市と千葉県千葉市で最大震度 4。
- 3月23日 択捉島南東沖で地震 - Mj7.0、北海道釧路市で最大震度 3。
- 3月25日 択捉島南東沖で地震 - Mj7.3、北海道帯広市・広尾町・釧路市・根室市で最大震度 3。
- 6月12日 宮城県沖地震 - Mj7.4(Mw7.4)、宮城県、岩手県、山形県、福島県で最大震度 5、死者 28

人、津波あり。

・12月6日 択捉島付近で地震 - Mj7.2、深さ100km。北海道、青森県、岩手県で最大震度4。

・1979年9月6日(昭和54年)阿蘇山噴火

・1979年10月28日(昭和54年)御嶽山・有史以来の噴火

1980年代

・1980年5月18日アメリカ・セントヘレンズ火山大噴火

・1980年(昭和55年)6月25日 - 7月 伊豆半島東方沖で群発地震 - 6月29日に最大 Mj6.7、東京都伊豆大島と静岡県熱海市で最大震度5。

・9月25日 千葉県北西部で地震 - Mj6.0 - 6.1、関東地方と静岡県で最大震度4、死者2人。

・1981年(昭和56年)1月19日 三陸沖で地震 - Mj7.0、岩手県宮古市・盛岡市・一関市、宮城県仙台市で最大震度4。

・1982年(昭和57年)3月21日 浦河沖地震 - Mj7.1、北海道浦河町で最大震度6。

・7月23日 茨城県沖で地震 - Mj7.0、福島県、茨城県、千葉県で最大震度4。

・1983年(昭和58年)5月26日 日本海中部地震 - Mj7.7(Mt8.1、Mw7.7)、青森県深浦町、むつ市、秋田県秋田市で最大震度5、日本海に大津波、死者104人。

・6月21日 青森県西方沖で地震 - Mj7.1、北海道森町・江差町、青森県青森市・深浦町で最大震度4。(日本海中部地震の最大余震)。

・8月8日 山梨県東部で地震 - Mj6.0、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県で最大震度4。死者1人。

・1983年10月3日(昭和58年)三宅島噴火

・1984年(昭和59年)1月1日 三重県南東沖で地震 - Mj7.0、深さ388km、福島県、栃木県、千葉県、東京都、神奈川県で最大震度4。

・3月6日 鳥島近海で地震 - Mj7.6(Mw7.4)、深さ452km、福島県、栃木県、千葉県、東京都で最大震度4。

・6月13日 鳥島近海で地震 - Mj5.9(Ms5.4、Mt7.3)、深さ0km、神奈川県横浜市で最大震度1。八丈島で130cmから150cmの津波を観測。津波地震。

・8月7日 日向灘で地震 - Mj7.1、愛媛県、大分県、熊本県、宮崎県で最大震度4。

・9月14日 長野県西部地震 - Mj6.8、長野県王滝村で推定震度6、山梨県、長野県、京都府で最大震度4。死者・行方不明者29人。

・1985年11月13日(昭和60年)ネバドデルルイス火山泥流災害

・1986年8月21日カメルーン・ニオス湖湖水爆発

・1986年11月21日(昭和61年)伊豆大島三原山大噴火 全島民が島外避難

・1987年(昭和62年)3月18日 日向灘で地震 - Mj6.6、宮崎県宮崎市で最大震度5。死者1人。

・5月7日 日本海北部で地震 - Mj7.0、深さ463km。北海道、青森県、岩手県、茨城県で最大震度2。

・12月17日 千葉県東方沖地震 - Mj6.7、千葉県銚子市、千葉市、勝浦市で最大震度5。死者2人(関東における戦後初の被害地震)。

・1989年(平成元年)6月30日 - 7月24日 伊豆半島東方沖で群発地震 - 7月9日に最大 Mj5.5、熱海市で最大震度4。7月13日に伊豆東部火山群の海底火山が噴火。

・11月2日 三陸沖で地震 - Mj7.1、青森県青森市・八戸市、岩手県大船渡市・盛岡市で最大震度4、久慈で1.3mの津波を観測。

・1989年7月13日(平成元年)伊東沖改定火山噴火

1990年代 - 2000年

・1991年6月3日(平成3年)雲仙普賢岳で大規模火砕流

・1991年6月7日フィリピン・ピナトゥボ火山大噴火

- ・1993年(平成5年)1月15日 釧路沖地震 - Mj7.5(旧 Mj7.8、Mw7.6)、北海道釧路市で最大震度6、死者2人。
- ・7月12日 北海道南西沖地震-Mj7.8(Mt8.1、Mw7.7)、奥尻島で推定震度6、北海道江差町・小樽市・寿都町、青森県深浦町で最大震度5。死者・行方不明者230人。奥尻島などへの巨大津波で甚大な被害。
- ・10月12日 東海道南方沖で地震 - Mj6.9(旧 Mj7.1)、栃木県、東京都、神奈川県で最大震度4。死者1人。
- ・1994年(平成6年)7月22日 日本海北部で地震 - Mj7.3、深さ552km。福島県、茨城県、東京都で最大震度3。
- ・10月4日 北海道東方沖地震 - Mj8.2(旧 Mj8.1、Mw8.3)、北海道釧路市・厚岸町で最大震度6、死者・行方不明者は北方領土で11人。
- ・10月9日 北海道東方沖で地震-Mj7.3、北海道釧路市で最大震度4、北海道東方沖地震の最大余震。
- ・12月28日 三陸はるか沖地震 - Mj7.6(旧 Mj7.5、Mw7.8)、青森県八戸市で最大震度6、死者3人。
- ・1995年(平成7年)1月7日 岩手県沖で地震 - Mj7.2(Mw6.9)、青森県八戸市、岩手県盛岡市・葛巻町で最大震度5、三陸はるか沖地震の最大余震。
- ・1月17日 兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災、阪神大震災)-Mj7.3(旧 Mj7.2、Mw6.9)、兵庫県南部・淡路島北部で最大震度7、死者・行方不明者6,437人。当初は最大震度6だったが、実地検分により7に修正された。
- ・12月4日 択捉島南東沖で地震 - Mj7.3(Mw7.4)(北緯44.58度、東経149.39度)。北海道と青森県で最大震度2。根室17cm、八戸13cm、釧路10cmの津波を観測。

・1997年7月12日(平成9年)青森県八甲田山で火山ガス噴出

- ・1997年(平成9年)5月13日 鹿児島県北西部地震 - Mj6.4(旧 Mj6.3、Mw6.2)、川内市で最大震度6弱。
- ・1998年(平成10年)4月20日 - 5月 伊豆半島東方沖で群発地震 - 最大は5月3日に Mj5.9(Mw5.6)、東京都伊豆大島と静岡県熱海市・伊東市で最大震度4。
- ・5月4日 石垣島南方沖地震-Mj7.7(旧 Mj7.6、Mw7.5)、先島諸島で最大震度3。一時津波警報発表。
- ・8月20日 小笠原諸島西方沖で地震 - Mj7.1(Mw7.0)、深さ467km。埼玉県、千葉県、東京都で最大震度3。
- ・9月3日 岩手県内陸北部で地震 - Mj6.2(旧 Mj6.1、Mw5.9)、岩手県雫石町で最大震度6弱。
- ・2000年(平成12年)1月28日 根室半島南東沖で地震 - Mj7.0(Mw6.8)、深さ59km、北海道釧路市・厚岸町・中標津町・別海町・根室市で最大震度4。

- ・3月28日 硫黄島近海で地震 - Mj7.9(Mw7.6)、深さ128km、小笠原諸島父島で震度3。

・2000年3月31日(平成12年)有珠山噴火

- ・6月26日 - 8月 新島・神津島・三宅島近海で群発地震 - 7月8日に三宅島で噴火開始。
- ・7月1日 - 神津島近海、Mj6.5(Mw6.2)、神津島で最大震度6弱。死者1人。
- ・7月9日 - 神津島近海、Mj6.1、神津島で最大震度6弱。
- ・7月15日 - 新島近海、Mj6.3(Mw6.1)、新島で最大震度6弱。
- ・7月30日 - 三宅島近海、Mj6.5(Mw6.5)、三宅島で最大震度6弱。
- ・8月18日 - 神津島近海、Mj6.1、式根島で最大震度6弱。
- ・8月6日 小笠原諸島西方沖で地震 - Mj7.2(Mw7.3)、深さ445km、小笠原諸島父島で最大震度4。

- ・10月6日 鳥取県西部地震 - Mj7.3(Mw6.8)、鳥取県境港市・日野町で最大震度6強(日野町で震度7相当を観測、防災科学技術研究所 Kik-net の計測震度計による)。

21世紀前半

2000年代

- ・2001年(平成13年)3月24日 芸予地震 - Mj6.7(旧 Mj6.4, Mw6.8)、広島県河内町・大崎上島町、熊野町で最大震度6弱、死者2人。フィリピン海プレート内部の地震。
- ・12月18日 与那国島近海で地震 - Mj7.3(Mw7.1)、沖縄県与那国島・西表島で最大震度4、西表島で最大高20cmの津波を観測。
- ・2002年(平成14年)3月26日 石垣島近海で地震 - Mj7.0(Mw6.5)、沖縄県黒島、波照間島で最大震度1。
- ・2003年(平成15年)5月26日 宮城県沖で地震(三陸南地震、宮城県北部沖地震、東北地震) - Mj7.1(Mw7.0)、岩手県・宮城県で最大震度6弱。太平洋プレート内部の地震。
- ・7月26日 宮城県北部地震 - Mj6.4(Mw6.1)、宮城県南郷町・矢本町・鳴瀬町で最大震度6強。
- ・7月27日 日本海北部で地震 - Mj7.1(Mw6.7)、深さ487km。青森県、岩手県、宮城県で最大震度3。
- ・9月26日 4時50分ごろ 十勝沖地震 - Mj8.0(Mw8.0 - 8.3)、北海道新冠町・静内町・浦河町・鹿追町・幕別町・豊頃町・忠類村・釧路町・厚岸町で最大震度6弱、死者・不明者2人。津波警報が発表され2mを超える津波が来襲し2人が飲み込まれ、2年後に1人が遺体で発見された。6時8分頃、十勝沖で地震-Mj7.1(Mw7.4)。北海道浦河町で最大震度6弱。十勝沖地震の最大余震。
- ・2004年(平成16年)9月5日 紀伊半島南東沖地震、19時7分 三重県南東沖で地震 - Mj7.1(Mw7.3)、最大震度5弱。津波を観測。23時57分 三重県南東沖で地震 - Mj7.4(Mw7.5)、最大震度5弱。津波を観測。
- ・10月23日 17時56分ごろ 新潟県中越地震(新潟県中越大震災) - Mj6.8(Mw6.7)、新潟県川口町で最大震度7。計測震度計で震度7が観測された最初の地震。死者68人(うち災害関連死が52人)。川口町の地震計で当時世界最高の2,516ガルを記録。
18時11分ごろ 新潟県中越地方で地震-Mj6.0、小千谷市で最大震度6強。新潟県中越地震の余震。
18時34分ごろ 新潟県中越地方で地震 - Mj6.5(Mw6.4)、川口町、長岡市、十日町市で最大震度6強。新潟県中越地震の最大余震。
- ・10月27日 新潟県中越地方で地震 - Mj6.1、魚沼市で最大震度6弱。新潟県中越地震の余震。
- ・11月29日 釧路沖で地震 - Mj7.1(Mw7.0)、北海道弟子屈町、釧路町、別海町で最大震度5強、深さ48km。一時津波注意報が北海道太平洋沿岸東部に発表。
- ・12月14日 留萌支庁南部で地震 - Mj6.1(Mw5.8)、気象庁による観測では北海道苫前町で最大震度5強。防災科学技術研究所による強震観測網では北海道小平町で震度6弱を観測。
- ・2005年(平成17年)3月20日 福岡県西方沖地震 - Mj7.0(Mw6.7)、福岡県福岡市・糸島市、佐賀県みやき町で最大震度6弱[注21]、死者1人。
- ・8月16日 宮城県沖で地震 - Mj7.2(Mw7.1)、宮城県川崎町で最大震度6弱。宮城県沖地震の1つとみられる。
- ・11月15日 三陸沖で地震 - Mj7.2(Mw7.0)、北海道から関東にかけて最大震度3。大船渡市で最大50cmの津波観測。アウターライズ地震。
- ・2007年(平成19年)3月25日 能登半島地震 - Mj6.9(Mw6.6)、石川県穴水町・輪島市・七尾市で最大震度6強。死者1人、小さいながら津波も発生した。
- ・7月16日 新潟県中越沖地震 - Mj6.8(Mw6.7)、新潟県長岡市・柏崎市・刈羽村、長野県飯綱町で最

- 大震度 6 強。柏崎刈羽原子力発電所では震度 7 相当の試算があるが、計測地震計によるものではない。柏崎市を中心に家屋倒壊や土砂崩れなどの被害。死者 15 人。局所的に最大 1m の津波を観測。
- 2008 年(平成 20 年)5 月 8 日 茨城県沖で地震 - Mj7.0(Mw6.8)、茨城県水戸市と栃木県茂木町で最大震度 5 弱。1 時 45 分に本震、同日 1 時 2 分ごろに Mj6.4、その 14 分後に Mj6.3 の地震。
 - 6 月 14 日 岩手・宮城内陸地震 - Mj7.2(Mw7.0)、岩手県奥州市と宮城県栗原市で最大震度 6 強。山崩れや地滑りが多発。死者・行方不明者 23 人。一関市の西部で観測された **4,022 ガルがギネス世界記録に認定**。
 - 7 月 24 日 岩手県沿岸北部で地震 - Mj6.8(Mw6.8)、深さ 108km。青森県八戸市・五戸町・階上町、岩手県九戸郡野田村で最大震度 6 弱。死者 1 人。岩手・宮城内陸地震との関連性は薄いとされている。
 - 9 月 11 日 十勝沖で地震 - Mj7.1(Mw6.7)**。北海道新冠町、新ひだか町、浦幌町、大樹町で最大震度 5 弱。
 - 2009 年(平成 21 年)8 月 9 日 東海道南方沖で地震 - Mj6.8(Mw7.0 - 7.1)、深さ 333km、関東から東北地方南部にかけて最大震度 4。
 - 8 月 11 日 駿河湾で地震 - Mj6.5(Mw6.3)、静岡県御前崎市・牧之原市・焼津市・伊豆市で最大震度 6 弱。死者 1 人。最大 40cm の津波を観測。気象庁は史上初の東海地震観測情報を発表。

2010 年代

- 2010 年(平成 22 年)2 月 27 日 沖縄本島近海で地震-Mj7.2(Mw7.0)。沖縄県糸満市で最大震度 5 弱。負傷者 2 名。沖縄本島地方に一時津波警報が発表された。南城市で 10cm の津波を観測。
 - 2010 年 4 月 14 日アイスランド・エイヤフィヤトラヨークトル火山噴火**
 - 11 月 30 日 小笠原諸島西方沖で地震 - Mj7.1(Mw6.8)、深さ 494km、関東から東北地方南部の広い範囲で最大震度 3。
 - 12 月 22 日 父島近海で地震 - Mj7.4[187] - 7.8(Mw7.3 - 7.4)、父島と母島で最大震度 4。小笠原諸島に一時津波警報が発表された。伊豆諸島で 0.5m、八丈島で最大 60cm の津波を観測。
 - 2011 年 1 月 27 日(平成 23 年)霧島山・新燃岳で爆発的噴火**
 - 2011 年(平成 23 年)3 月 9 日 三陸沖で地震 - Mj7.3(Mw7.3)。宮城県登米市・美里町・栗原市で最大震度 5 弱。最大 60cm の津波を観測。東北地方太平洋沖地震の前震とみられる。
 - 3 月 11 日 14 時 46 分ごろ 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災) - Mw(モーメントマグニチュード) 9.0 - 9.1(Mj8.4、**日本の地震観測史上最大**)。宮城県栗原市で最大震度 7。他に東日本の 8 県(岩手、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉)で震度 6 弱以上を観測。死者・行方不明者約 2 万 2000 人(うち災害関連死が約 3,500 人)。戦後最悪の震災。北海道から関東地方にかけて太平洋沿岸部への巨大津波で甚大な被害。福島第一原子力発電所事故を招く。
- 3 月 11 日以降の数日間に震源域から離れた場所で発生した地震も、誘発の可能性が指摘。
- 15 時 8 分ごろ 岩手県沖で地震 - Mj7.4(Mw6.7 - 7.4)。青森県と岩手県で最大震度 5 弱。東北地方太平洋沖地震の余震。
 - 15 時 15 分ごろ 茨城県沖で地震 - Mj7.6(Mw7.7 - 7.9)。茨城県鉾田市で最大震度 6 強。東北地方太平洋沖地震の最大余震。
 - 15 時 25 分ごろ 三陸沖で地震 - Mj7.5(Mw7.5 - 7.7)。北海道、東北地方、関東地方の広い範囲で最大震度 4。東北地方太平洋沖地震の余震。アウターライズ地震。
 - 3 月 12 日 長野県北部で地震 - Mj6.7(Mw6.3 - 6.4)。長野県栄村で最大震度 6 強、死者 3 人。東北地方太平洋沖地震の誘発地震。
 - 3 月 15 日 静岡県東部で地震 - Mj6.4(Mw6.0)。静岡県富士宮市で最大震度 6 強。東北地方太平洋沖地震の誘発地震。

- 4月7日 宮城県沖で地震 - Mj7.2(Mw7.1)。宮城県栗原市、仙台市宮城野区で最大震度6強。死者4人。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 4月11日 福島県浜通りで地震 - Mj7.0(Mw6.6 - 6.7 - Mw6.8)。福島県いわき市・古殿町・中島村、茨城県鉾田市で最大震度6弱。死者4人。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 4月12日 福島県中通りで地震 - Mj6.4(Mw5.9 - 6.0)。福島県いわき市、茨城県北茨城市で最大震度6弱。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 6月30日 長野県中部で地震 - Mj5.4(Mw5.0)、長野県松本市で最大震度5強。死者1人。東北地方太平洋沖地震の誘発地震。
- 7月10日 三陸沖で地震 - Mj7.3(Mw7.0)。岩手県、宮城県、福島県で最大震度4。岩手県大船渡港、福島県相馬港で10cm、宮城県仙台港で12cmの津波を観測。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 10月3日 - 12日 富山県東部の長野県との県境近くで群発地震。10月5日にMj5.4(Mw5.3)(最大震度3)、Mj5.2(最大震度4)などの地震が相次ぐ。0月7日のMj2.4(最大震度1)の地震による落石で死者1人。
- 11月8日 沖縄本島北西沖で地震 - Mj7.0(Mw6.8 - 6.9)、深さ217km。沖縄本島地方で最大震度4。
- 2012年(平成24年)1月1日 鳥島近海で地震 - Mj7.0(Mw6.8 - 6.9)、深さ約370km。東北から関東の広い範囲で最大震度4。
- 3月14日 18時8分ごろ 三陸沖で地震 - Mj6.9(Mw6.9 - 7.0)。北海道、青森県、岩手県で最大震度4。八戸港で21cmの津波を観測。アウターライズ地震。
 - 21時5分ごろ 千葉県東方沖で地震 - Mj6.1(Mw5.9)。千葉県と茨城県で震度5強。死者1人。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 12月7日 三陸沖で地震 - Mj7.3(Mw7.3 - 7.4)、深さ49km。青森県、岩手県、宮城県、茨城県、栃木県で最大震度5弱。死者2人。この地震の8秒前にM7クラス(Mw7.2)と推定される地震が発生している。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 2013年(平成25年)2月2日 北海道十勝地方南部で地震 - Mj6.5(Mw6.9 - 7.0)、深さ102km。北海道浦幌町・釧路市・根室市で最大震度5強。
- 4月13日 淡路島付近で地震 - Mj6.3(Mw5.8)、深さ15km。淡路市で最大震度6弱。
- 4月17日 - 4月18日 三宅島近海で群発地震 - 4月17日 - 4月18日にかけて震度1 - 3の地震が相次ぐ。4月17日17時57分ごろの地震で三宅島で最大震度5強を観測。
- 10月26日 福島県沖で地震 - Mj7.1(Mw7.1 - 7.2)、深さ56km。宮城県、福島県、茨城県、栃木県で最大震度4。東北地方太平洋沖地震の余震。アウターライズ地震。
- 2014年(平成26年)7月12日 福島県沖で地震 - Mj7.0(Mw6.5)、深さ33km。宮城県、福島県、茨城県、栃木県で最大震度4。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 2014年9月27日(平成26年)御嶽山噴火
- 11月22日 長野県北部で地震(長野県神城断層地震) - Mj6.7(Mw6.2)、深さ5km。長野県長野市、小谷村、小川村で最大震度6弱。糸魚川静岡構造線の一部にあたる神城断層とその北方延長部の併せて約20kmの断層が活動した。
- 2015年5月29日(平成27年)口永良部島噴火
- 2015年(平成27年)5月30日 小笠原諸島西方沖で地震 - Mj8.1(Mw7.8)、深さ682km。小笠原母島と神奈川県二宮町で震度5強。死者なし。気象庁によれば、1900年以降のM8以上の世界最深の地震。47都道府県全てで震度1以上の揺れを観測した。
- 2015年6月30日(平成27年)箱根山噴火
- 11月14日 薩摩半島西方沖で地震 - Mj7.1(Mw6.7)、深さ17km。鹿児島県、佐賀県で最大震度4。

中之島で 30cm の津波を観測。

- 2016 年(平成 28 年)4 月 14 日 熊本地震の前震 - Mj6.5(Mw6.2)、深さ 11km。熊本県益城町で最大震度 7。翌日までに 9 人の死亡を確認。
- 4 月 15 日 熊本県熊本地方で地震 - Mj6.4(Mw6.0)、深さ 7km。熊本県宇城市、益城町で最大震度 6 強。
- 4 月 16 日 熊本地震の本震 - Mj7.3(Mw7.0)、深さ 12km。熊本県益城町、西原村で最大震度 7[258]。前震を含めて死者 273 人(うち災害関連死が 218 人、豪雨による土砂災害の死者で地震との関連が認められた死者が 5 人。2019 年 4 月 12 日現在)。この地震の後、熊本県阿蘇地方と大分県でも地震活動が活発化した。本震の約 32 秒後に大分県中部で M5.7 の地震が発生し大分県別府市と由布市で震度 6 弱を観測(ただしこの地震の震度は本震のものと区別不可能)。
- 10 月 21 日 鳥取県中部で地震 - Mj6.6(Mw6.2)、深さ 11km。鳥取県倉吉市、湯梨浜町、北栄町で最大震度 6 弱。
- 11 月 22 日 福島県沖で地震 - Mj7.4(Mw6.9)、深さ 25km[264]。福島県、茨城県、栃木県で最大震度 5 弱。宮城県仙台港で 144cm の津波を観測。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 12 月 28 日 茨城県北部地震 - Mj6.3(Mw5.9)、深さ 11km。茨城県高萩市で最大震度 6 弱。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 2018 年 1 月 23 日(平成 30 年)草津白根山(本白根山)噴火**
- 2018 年(平成 30 年)6 月 18 日 大阪府北部地震 - Mj6.1(Mw5.6)、深さ 13km。大阪府大阪市北区、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市で最大震度 6 弱。死者 6 人。
- 9 月 6 日 北海道胆振東部地震 - Mj6.7(Mw6.6)、深さ 37km。北海道厚真町で最大震度 7。死者 42 人。**
- 2018 年 12 月 22 日(平成 30 年)インドネシア・アナクラカタウ島噴火・津波発生**
- 2019 年(令和元年)6 月 18 日 山形県沖で地震 - Mj6.7(Mw6.5)、深さ 14km[274]。新潟県村上市で最大震度 6 強。

2020 年代

- 2020 年(令和 2 年)2 月 13 日 択捉島南東沖で地震 - Mj7.2(Mw6.9)、深さ 155km。北海道で最大震度 4。**
- 2021 年(令和 3 年)2 月 13 日 福島県沖で地震 - Mj7.3(Mw7.1)、深さ 55km。福島県、宮城県で最大震度 6 強。死者 3 人。東北地方太平洋沖地震の余震[279]。
- 3 月 20 日 宮城県沖で地震 - Mj6.9(Mw7.0)、深さ 59km。宮城県で最大震度 5 強。東北地方太平洋沖地震の余震。
- 2021 年 8 月 13 日(令和 3 年)福徳岡ノ湯の噴火による軽石被害**
- 2022 年(令和 4 年)3 月 16 日 福島県沖で地震 - Mj7.4(Mw7.3)、深さ 57km。宮城県、福島県で最大震度 6 強。死者 3 人。2 分前に M6.1 の前震も発生。前震では最大震度 5 弱を観測。
- 2023 年(令和 5 年)5 月 5 日 石川県能登地方で地震 - M6.5、深さ 12km。石川県で最大震度 6 強。死者 1 人。
- 2024 年(令和 6 年)1 月 1 日 能登半島地震-Mj7.6(Mw7.5)、深さ 16km。石川県志賀町で最大震度 7。